

アフターコロナの世界を考える

双日総研チーフエコノミスト
吉崎達彦

- *コロナ禍は日本にどう影響しているか
- *バイデン政権にワクチン接種急拡大の追い風
- *米国史上最大の死者数迫るコロナ禍
- *1920年代というパンデミック後を検証
- *世界はなぜ暗黒時代になったのか
- *アフターコロナに予想される3つの変化
- *コロナ禍でも意外に健闘している日本経済
- *家計貯蓄は1年間で36兆円の増加に
- *アフターコロナで伸びる産業は何か
- *バイデン政権との付き合い方



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

本日は双日総研チーフエコノミストの吉崎さんにおいでいただきました。もうご紹介の必要もないかもしれませんが、吉崎さんは60年のお生まれで、一橋大学をご卒業後、日商岩井——現在の双日でございますが——に入られ、ブルッキングス研究所研究員、あるいは同友会の調査役等を経て、現在の職に就いておられます。

アメリカを含めた世界の地政学にたいへん造詣が深いということでもいつもお話を伺っておりますが、今日は「アフターコロナの世界を考えます」ということで、日本にいとやかなかわからない全体の情勢をお話したいだけだと思います。それでは吉崎さん、よろしくお願いたします。

コロナ禍は日本にどう影響しているか

吉崎 ご紹介ありがとうございます。双日総合研究所の吉崎でございます。

今日のテーマは「アフターコロナの世界を考える」です。今のコロナの世界というのがあとちょっとで大きく変わるのではないかと、それとどちらかと言うとこの後明るい未来が待っているのではないかとこの後話をしてみたいと思っております。

早速足元の状況です。今世界中にこの病気が蔓延しております、どこへも逃げ場所はないと言っているくらいかと思えます。少し古いデータで恐縮ですが、4月のデータです。全世界で1億4382万人の方が感染されて、その中